

2018
2015

5 / 1 ・ 20

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/有田 洋明 編集人/樋口 浩之
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

自治労連家計簿調査
にご協力ください

調査期間6月1日~30日

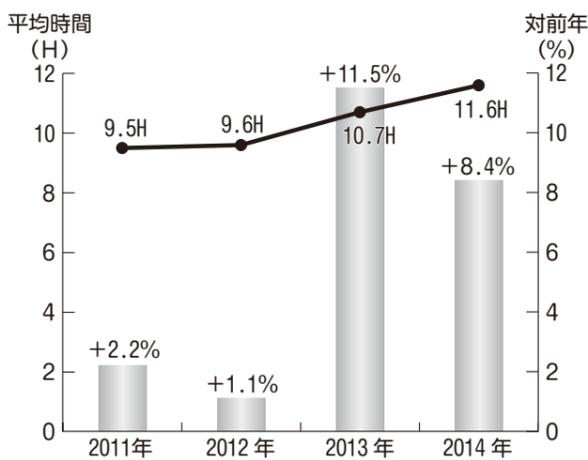
調査いただいた方には1000円
相当の図書券を進呈します。

増え続ける残業 無理な人員削減で

限界職場に!?

住民のために仕事のできる職場を

1人1月あたりの平均残業時間の推移



この数年、府職員の時間外労働は増加し続けています。2014年度の1人1月あたりの平均残業時間は前年度比で8.4% (11.6時間) も増えています。年間360時間の上限規制を超えている職員も約688人となり、前年度に比べて15.6%増えています。

そもそも、公務員の時間外労働は「臨時の必要がある場合」に限って認められています (地公法33条)。ここで言う「臨時の必要」とは、災害など住民の生命、財産等にかかわる通常予見しがたい突発的な事由が発生した場合を予定しているものです。しかも、33条による時間外労働は、際限なく可能というのではなく、あくまで必要限度の範囲内とされています。

業務量が増加したり、恒常的に残業が発生している

この数年、府職員の時間外労働は増加し続けています。2014年度の1人1月あたりの平均残業時間は前年度比で8.4% (11.6時間) も増えています。年間360時間の上限規制を超えている職員も約688人となり、前年度に比べて15.6%増えています。

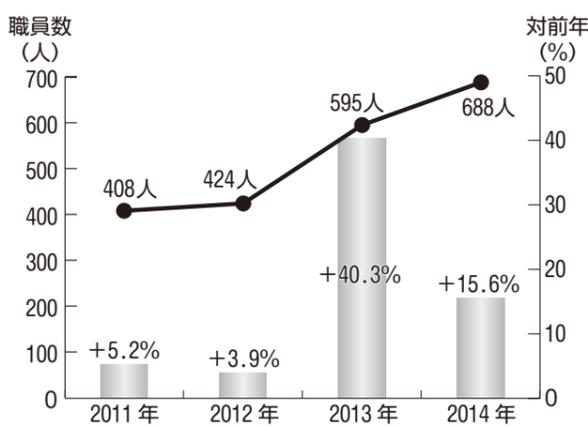
に人員を増やさなかったり、無理な人員削減で残業を増加させることは「違法行為」といえるものです。

こうした状況のもと、府職員の健康状態も悪化しています。2014年度の一般定期健康診断の結果では、要観察33%、要医療39.7%で、職員の72.7% (4104人) が「有所見 (異常あり)」となっております。昨年よりも3.9ポイント増加し、高止まり状態となっております。

住民の健康に寄り添い、誰もが安心して生活できるようにサポートするのが自治体の仕事です。そのため、職員はさまざまな専門性をいかして奮闘する必要があります。「住民全体の奉仕者」として、住民のために仕事をすることは「マンパワ

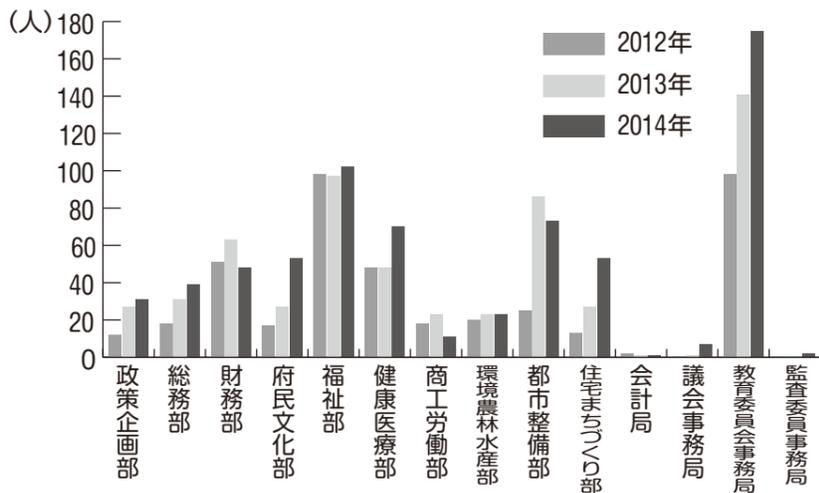
」は不可欠です。職員が健康で働き続けることのできる職場が必要です。業務量に見合った人員を配置せ

1人年間360時間上限規制を超えている職員数の推移

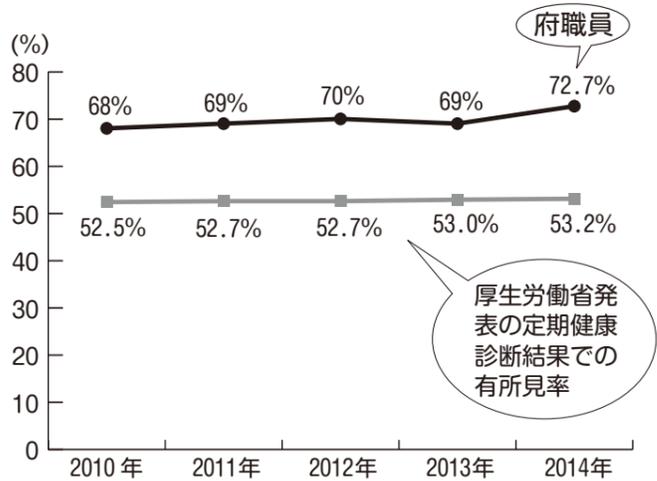


府職員の健康状態も悪化しています。2014年度の一般定期健康診断の結果では、要観察33%、要医療39.7%で、職員の72.7% (4104人) が「有所見 (異常あり)」となっております。昨年よりも3.9ポイント増加し、高止まり状態となっております。

部局別 年間360時間上限規制を超えている職員数



府職員の一般定期健康診断結果での有所見者の推移



ない」と強く感じている。(1)

大阪を揺るがすのか、元気な活気のある大阪にするのか、立場や意見の違いはあってもしっかりと話し合い、みんなの一致点を見出すことが大切だ。そのためにも議会があり、府・市職員も住民の声に真摯に耳を傾け、行政に反映させなければならぬのだ。今回の結果は、知事や市長の独断や議会の数で強行するのではなく、みんなでよく話し合っ

17日の住民投票は僅差で反対多数となった。橋下市長も松井知事も今回の住民投票を「究極の民主主義」と言うが果たしてそうなのだろうか。民主主義は民主的に話し合いが重んじられ、みんなの一致点を見出すことが何より重視されなければならない。市民を対立させ、短期間に二者択一を迫ることは民主主義とは相容れない乱暴なやり方だ。現に多くの人が「よく分からない」と言っている。どうやって働きやすい、暮らしやすい大阪をつくるのか、元気な活気のある大阪にするのか、立場や意見の違いはあってもしっかりと話し合い、みんなの一致点を見出すことが大切だ。そのためにも議会があり、府・市職員も住民の声に真摯に耳を傾け、行政に反映させなければならぬのだ。今回の結果は、知事や市長の独断や議会の数で強行するのではなく、みんなでよく話し合っ

遊歩道

投票は僅差で反対多数となった。橋下市長も松井知事も今回の住民投票を「究極の民主主義」と言うが果たしてそうなのだろうか。民主主義は民主的に話し合いが重んじられ、みんなの一致点を見出すことが何より重視されなければならない。市民を対立させ、短期間に二者択一を迫ることは民主主義とは相容れない乱暴なやり方だ。現に多くの人が「よく分からない」と言っている。どうやって働きやすい、暮らしやすい大阪をつくるのか、元気な活気のある大阪にするのか、立場や意見の違いはあってもしっかりと話し合い、みんなの一致点を見出すことが大切だ。そのためにも議会があり、府・市職員も住民の声に真摯に耳を傾け、行政に反映させなければならぬのだ。今回の結果は、知事や市長の独断や議会の数で強行するのではなく、みんなでよく話し合っ